

- 十二月のおもな行事
- 国際人権年記念人権月間 (1日~31日)
 - 貯蓄増強歳末特別運動 (1日~31日)
 - 歳末たすけ合い運動 (1日~31日)
 - 郵便番号記載強調週間 (15日~28日)
 - 年賀郵便取扱い開始 (15日)
 - 国際人権年式典 (10日)
 - 年末年始海上特別警戒 (15日~1月10日)

10月末日の人口動態

男	7,211人	女	7,756人
計	14,967人	(前月)	14,986人
3,919世帯		(前月)	3,925世帯
出生	男 8人	女 5人	計13人
死亡	男 12人	女 3人	計15人
転入	(県内) 13人	(前月)	11人
"	(県外) 21人	(")	32人
転出	(県内) 27人	(")	40人
"	(県外) 24人	(")	38人



大豊村長決まる

任期満了に伴う大豊村長選挙は十一月二十一日に行われ、即日開票の結果西岡治郎氏(現)が再選された。新しく再選された西岡治郎氏は同月二十七日、第五代目の大豊村長に就任、今後四年間村政を担うこととなる。投票の内訳は、当日有権者九千七百二人、投票総数六千五百九十二票、有効投票六千五百五十六票、無効投票三十六票、当選一三三八票、西岡治郎、野島孝彦、無現。

審判は西岡治郎氏に 今後四年間村政を担当



村長室におさまった西岡新村長

第二回 村の農業祭

参加者は千人を越す

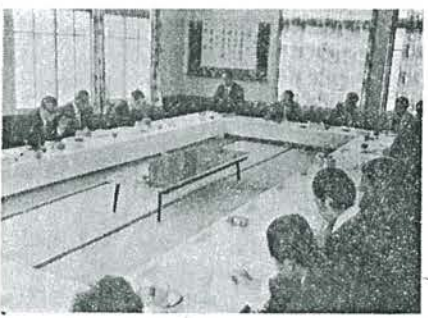
大豊村初の総合企画による第一回村の農業祭は十一月二十六日旧役場庁舎を中心にして開かれた。この日部門別では家畜、養蚕、園芸、農機具展示等、見事な出品があり、晴天にめぐまれて約一千人の人出でにぎわった。受賞の主なものは次の通りです。
【家畜の部】優等賞知事賞一、大西茂樹、経済連会長賞一、伊野原慶太郎、畜産会長賞一、藤川重雄、森山一、小笠原利幸、茨木彦秀、▽二等賞一、山中鉄意、桑名正巳、西谷圭子、門脇盛恒、森下登志夫、▽三等賞一、秋山重実、上村里助、丁野豊景、西岡秀馬、小笠原富米、【養蚕の部】(経営)知事賞一、団体、八川養蚕組合、個人、上村昌徳、▽村長賞一、西寺内養蚕組合、優等賞一、上村昌正、小笠原貞子(蘭)、▽写真説明(上)「ずらりと並んだ農機具の展示場(下)お百姓さん達の目をひいた肥育牛」

輝く大臣と 知事表彰

大豊村教育委員会は、四十二年度の学校基本統計調査の成績が極めて優秀であるとして、文部大臣から表彰されることになり、去る十一月十七日高知県庁において表彰状が伝達されました。

地元代表が意見発表

過疎対策現地座談会



県主催の過疎問題現地座談会は十一月二十七日、東豊永公民館で行なわれた。この座談会は、人口の都市集中化による山村地域の過疎化現象に取り組むため、県が過疎対策推進本部を設置、その対策の一環として住民の声を聞き施策に反映させようとしているもので、高岡郡橋原町を皮切りに行なわれ、本村は五番目。この日は、県側から溝淵知事、寺尾過疎対策本部長、大町次長、県議会対策委員会から三宮、栗生両県議が出席、地元側では西岡村長と、座談会の主役である住民十名が出席、正午過ぎから先ず本村▽優等賞高知県養蚕農協連合会長賞一、平石安子、高知県製糸協会賞一、藤原徳包、蚕糸振興会長賞一、豊永基晴、聖徳社社長賞一、原伝代村長賞一、上村栄吉郎、大豊村養蚕振興協議会会長賞一、沢田久万義、▽一等賞一、豊永美雄喜、小笠原茂、小松幸太郎、大家金馬、高橋高盛、山本花子、下村末広、丁野和夫、豊永源良、阿佐利一、三谷初重、都築梅子、茨木貞市、久保菊尾、▽二等賞一、渡辺万吉ほか二十九名(自給桑出)▽優等賞一、白石明徳ほか十二名。明治百年記念植樹船戸部落では、部落総会で「明治百年記念植樹」

船戸部落では、部落総会で「明治百年記念植樹」

年末で火災の多いシーズンになり、消防庁が発表した消防白書によりますと、昭和四十二年度中に一日あたり四十九件で、十分ごとに、日本のどこかで火災が発生し、毎日二十九人が死亡したり負傷したりして一億五千万円が灰になるといふことです。生活水準の向上で各家庭には、プロパンガスや石油ストーブ等の危険物を使用するものが多く、したがって、これらの爆発事故が最近激増の一途をたどっております。

家庭での注意事項

- 一、ガスの臭いの臭いがする時は、決して点火しないこと。
- 一、ボンベの元栓は必ずしめて就寝のこと。
- 一、ガス器具のそばでは、かまどを使用しないこと。

あなたは火事のおそろしさをまだ知らない

(二米以内で火気を使用しないこと)

- 一、ゴム管は二年ごとに取替えること(屋外ボンベのゴムホースは室内では臭いを感じないので注意すること)
- 一、ボンベは倒さないこと
- 一、コンセントの取付位置は、ガス配管より十五cmはなすこと(ガス漏れの際はスパークにより引火します)

◎プロパンガスの保安検査

コンロ、ストーブの点検等については、それぞれの取扱業者と相談して下さい。又家庭では消火器を備えるようにしたいものです。

◎石油ストーブ、石油コンロ、ガスコンロ、ガソリンベンジン等は引火危険物ですアットという間に大火事になりますから注意を...

大豊村消防団

「館報大豊」に望む

「館報大豊」百号発刊を記念して、中央公民館で募集しております村民の皆さんからの論文「館報大豊」に望むは、期待に反して応募者が僅か三名と意外に少ない結果に終わりました。しかし応募された三名の方達はそれぞれの角度から、格調の高い論評により今後の館報のあり方や方向づけをいただきました。

また館報の保存者としては、名乗り出た方が二名、完全にそろえて保存しておられる方は一名もありませんでした。中央公民館ではこれら五名の方々に記念品を贈呈し、次の通り本紙に掲載して広く村民の皆さんにお知らせ致します。

村政参加への企画と 地方文化の育成をはかれ

高須 小笠原弘昌 (33才)



小笠原弘昌氏

しかし、この種のパイプが一方通行のものであった場合、「パイプ」はその半分の価値しか持ち得ないであろう。村政を広く村民に知らせる窓口の一つである。

庶民のための館報

先頃の参議院選挙で、タレント候補が大量得票して当選した。色々な批判や批評がマスコミをにぎわせたが、彼等が政治をより庶民に近いものにするのではないかと、という点では、タレント議員の誕生は意味のあることかも知れない。政治が直接政治に関わりのある議員や、役人だけのものではあつてはならぬことは、今さら云うまでもない。庶民の一人一人が、議員や役人の動向を注視し、政治のなり行きに関心を持たなければならぬ。

そうした庶民と政治を結ぶパイプとして「館報大豊」は、我々村民の為に存在している。政治をより庶民に近いものにするために「館報大豊」は少なからず村民の為に貢献してきた。その功績は大きい。村民が村政を知ることで、唯一のマスコミとして、立派に「パイプ」の役割をはたしてきたと云えるだろう。

村議会の収録で議員の活躍を知ることができ、村政の一部をうかがい知ることができた。また商業新聞にはない村内の出来事を、くわしく知ることができ



丸山正時氏

新刊発 足利市の「館報大豊」を大切に保存していた方が二名あらわれた。

大王下の丸山正時さん(48才)、西庵谷の三谷春実さん(66才)がその人です。丸山さんの場合は、旧大杉村当時発行していた「館報巨杉」(昭和二十九年一月十日発行第二号)から保存されておられ、四ヶ村合併への大きな陣痛から、新生大豊村へのゴールインにいたるまで、当時の模様がよくわかっています。



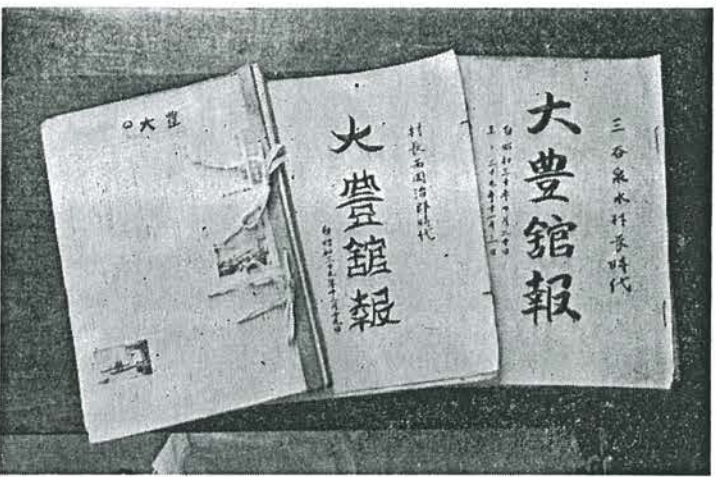
三谷春実氏

では貴重な資料となっており、きれいにしておられますが全部ではなく、十四冊かかっております。

また、三谷さんの場合は、きれいに表紙をつけて、「三谷村長時代」「西岡村長時代」のように語っております。

館報保存者現わる

左丸山正時右三谷春実の両氏



代」と、時の村長別にとりかかっていますが、これも十五冊かかっており、全号を完全に保存している方は一人もいないという事になりました。

両名は保存理由などについて次のように語っております。

「館報」の場合、最もつとめ早いのは「投票欄」であるが、もっと積極的な村民の村政参加の企画と編集を希望したいものである。「館報」が村政の一環をなすために、ぜひともやってほしいし、またやるべきことであると思うのである。

文化的なレベル向上の 役割を果せ

「館報」のもう一つの役目は、地域の文化活動の一つとしての役割である。公民館活動の一環として、この新聞が存在する限り、文化活動と切りはなして考えることは出来ない。テレビをはじめとするマスコミの発達、交通機関の発達、文化を中央集権化する傾向をみせている。地方の文化を育成し、活発化させることは、「公民館」の使命でなければならぬ。そして、その働きを助けるために館報のなすべきことは少なく

正しい姿勢で うまい編集を期待

杉 吉川和雄 (28才)



吉川和雄氏

館報に求めるもの

現代に受け継いできたもの、また現代を未来に伝えていくものと、その間に文化や文章がある。人間の思想や文化の発展はこの文化や文章によって容易に知ることが出来るのである。

「館報大豊」も、ついに百号の台にのった。一口に百号といっても、新聞社や雑誌社のように企業とは違ふのであるから、素人づくりの館報としては立派であるといえる。記事の内容や文法等細かい技法には拙いと思われる面もあるが、我々村民と大豊村というマノモス組織を結ぶ唯一の機関紙として館報の果たした功績は大きい。

今日の人間は、殆んどすべての人がマスコミの強い影響下におかれている。そして私達はこれに刺戟され、生活目標を立てて生きていく。

調査は、勿論やってみる必要があるであろうが最後に「館報」に望みたいことは、「読まれる館報」でなければならぬと云うことである。折角、編集者が一生懸命に作っても、村民に読まれなければ何にもならない。

誰でも簡単に読めてわかるような紙面、読もうという気になる紙面づくりのために、編集上の工夫が必要であろう。写真や凸版の多用なども考えられると思う。

県下でも有数の広い面積をもつ大豊村である。それだけに「館報」の仕事一つとっても、色々と悩みも多いことであろう。しかし、百号を迎えるという歴史と、数々のコンクール受賞という実績は、これからの「館報」への大きな力である。今後の発展を期待したい。

村行政の徹底 民意発揚の窓口によ

立野 田村万石 (72才)



田村万石氏

館報の使命と目的

大豊村には広報活動というものが全くない。国政、県政においては毎日の新聞、テレビなどにより、又は国会討論会などを通じて政治の動向がうかがい知られて政治を身近に感じ、又親しみを生ずるわけであるが、こと村政となつては全くそれが無い。淋しいばかりでなく、村民は全く退けられて「つまらな過ぎる」に置かれて、只神様の「ごせんたく」を受ける如く唯々諸々と有難く承服する外ないのが村政の実態である。

敢えて議会制度を否認するものではないが、それが議会制度に陥り議会専制となり、民意を反映せぬ強権政治となつては困るのである。

そのためには声なき声を聞き、隠なき民意を的確にあげ、尊重し理解し納得の上の行政が要求される訳であつて、独善で専制であつては村民不在の村政と評するのがひどいとしても、対話なき村政と評するのでも明の余地はないと思ふ。要は政治姿勢の問題であり、民主村政の基本的問題なのである。村民は村行政の内容を知りたいのである。(以下三頁下段へ)

はこういう安易なものだけに流れるという我々大衆にも大きな責任があるのではないだろうか、我々ももっと本木を知る必要がある、昭和元禄と呼ばれる現代こそ余裕をもって、聞く技術、読む技術、書きそして理解する力を養なうべきであると思う。そして「館報大豊」をどうし批判し、我々の手で立派な館報に育ててゆかなければならない。死んだ館報でなく温かい血の通った、読みごたえのある「館報大豊」の発展のために協力を惜しまないものである。

ヘルメットに角材、デモやバリケードの大学生とは対象的

強健なからだ

どいへの出場決定

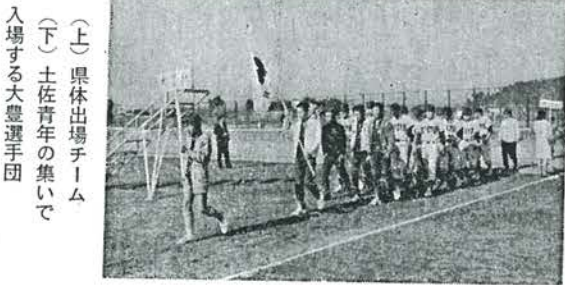
り多くの青年が、より多くの競技

笹ヶ峰を越えて新宮村へ

島方面研修視察旅行(餅三寺

活躍する村の若者たち

誇示した記録 大豊青年の面目躍如



(上) 県体出場チーム
(下) 土佐青年の集いで
入場する大豊選手団

ヘルメットに角材、デモやバリエードの大学生とは対比的に、社会のために汗を流し「今日」を大切に育ててゆくとする若人達のいることをわすれてはなりません。大豊村には、こうした青少年が約二百五十名ほど、自宅、村内で或いは村外に活動しながら、青年団や青年学級、4日クラブ等の諸活動を展開し、夢と希望をもって、明日への道を拓いております。本紙は、過疎にもめげず活躍するこれら若者達にスポットをあててみました。

スポーツ

強健なからだ、明るく豊かな心情を培うのにスポーツは最も効果的な手段にありま

どのへい出場決定
(一) 九月十五日、土佐、長岡地区県体予選ソフトの部で優勝、県体出場決定
(二) 九月二十二日、高知県民体育大会秋季大会、土佐地区代表として初出場、吾川郡伊野町、高知市朝倉体育会の強豪を破って優勝戦に進出、日没のため野市町と抽選の結果第二位を獲得
(三) 十一月二十三、四日、野市青年センターで開かれた「明治百年土佐青年のつどい」には、ソフト、バドミントンの選手団三十名が参加、ソフト部は高知県中央地区代表として、高岡郡葉山村、日高村を破り優勝戦で幡多郡大方町を破って県下第一位、バドミントンでは伊野町と対戦県下第四位を獲得

これらの試合は、いずれもチームワークのとれた大豊村連合青年団の特質を遺憾なく発露し、県下にその名を高く評価されました。九月二十二日の県体当日、秋雨けむる市営グラウンドを村旗及び山中教育長を先頭に堂々入場行進した感激は若者達の生涯に刻まれることのできないものとなったようである。

ただこうした体育行事には、よい機会が開設されているもので、職員の「若い力」を生かしたい。勿論大豊村は立地条件は悪い。立地条件とは十九世紀に発表された、イギリスのチェルシーの農業立地論によると、消費地である都市に近い生産地では、集約農業が行なわれ、都市から遠ざかるに従って、農業が粗放になる、農業立地をきめる最大の条件は輸送費である。と説いているがその通り生産物の販売には経費がかさみ、不利な条件下にはあるが、そこには必ず可能性はある筈である。

「若い力」を生かす。先達って青年過疎も吹きとぶ。団の共助会があり「十年後の村について青年の夢を語る」と言うテーマで村長、農協組合長と共に私も出席し青年諸君の話しを聞かしてもらったが、青年としては余りにも夢がな

日曜日にも学習 青年学級の活躍

四十三年度の大豊村青年学級は、村内一学級を開設し、毎月一回移動学級として、村内のあちこちで学習活動を行なっております。学級生は男女合計六十名、これは青年学級振興法に基づいて村が開設しているもので、職員の「若い力」を生かしたい。勿論大豊村は立地条件は悪い。立地条件とは十九世紀に発表された、イギリスのチェルシーの農業立地論によると、消費地である都市に近い生産地では、集約農業が行なわれ、都市から遠ざかるに従って、農業が粗放になる、農業立地をきめる最大の条件は輸送費である。と説いているがその通り生産物の販売には経費がかさみ、不利な条件下にはあるが、そこには必ず可能性はある筈である。

依願心が強くては、大人物にはなれぬ。テレビドラマの龍馬のような人物になれとは云わぬが、大豊村には大豊魂、或は大豊根生と云うものがあるはずである。若さや大いに発露し、過疎問題など吹き飛ばし、豊かで明るい村づくりに励んで欲しい。



笹ヶ峰を越えて新宮村へ
島方面研修視察旅行(耕三寺宮島、広島市内、平和公園、江田島元海軍兵学校跡等を立派な態度で視察)

(二面よりつづく)
館報編さんに見る
本紙発刊の目的と使命にのっとり、村行政の内容を忠実に且つ詳細に伝え、村民の理解と納得を求むべきである。議会の報告など詳細に亘り一問一答の形式をとり、議員の活動状況を伝えることは村政に大きくプラスするばかりでなく、議員は勿論村民の政治意識昂揚にも役立つのである。

青年に望む

大豊農業指導所長

門屋 清三郎



大豊村の印象 四月の県の人事異動によりこちらに来てもう半年を過ぎた。今まで感じていた大豊村の印象と云えば、山と川と道路ばかりのように思っていたが、実際に地区を担当し、仕事として取り組んでみると今迄抱いていた印象とは大分異なっており、面白く見えて、山間地は山間地としての特徴がだんだんとわかってきた。

事情が分るにつれ思ひ出されるのが前任地園芸地帯との比較である。上位の農家ではタバコで三百万円、ハウス園芸で四百万円の収入をあげている農家とも接してきた。これらの農家の皆さんは良い面も持っているが、又多くの欠点をも持っている。視野を広くする必要があるのではないか。

偉大な農村青年の力 今は広い番付けでは米、ソ、西独について世界第四位に番付けされ「大國」にのしあがった。経済企画庁の推定では国民総生産は二、三年の中には西独を抜き、世界第三位になるといういわれられている。そのように最近の日本経済の成

ある。と云っても過言ではあるまい。資本や、技術だけでは発展はあり得ない、日本経済の高度成長、それは若者の力であり、可能性である私は信じている。

村の発展も此

共担当者の御精進を祈るものである。(以下三頁下段へ)

尚編さんには委員会を設置し、委員を役場二、村議二、一般四名くらい委嘱し編さんの方法、採題の撰取などについて合議したいものである。投稿には批判的意見も当然あるが、その採否を一方向的に決定することは言論の自由を制圧する結果となり許されないからである。

発行は毎月原則とし、時に論文などを募集して特別号をも発行したいものである。館報は前述の通り村行政の説明徹底と、一般投稿により、村民と論議を知る二大目的の機関紙とし、又一方村勢報道、文芸談話等を加え、村民の交流と情報の高め政治関心を深めさせ機軸とした権威ある村民機関紙としての面目とイメージを確立したいものである。

和衷一体は本村の村是である。野に広くと論をもとめ、深く大衆の声をきき、村民の一人一人の理解と納得のもと、円満なる村行政を行なうため本紙の使命は重大である。

共励会をかえりみる

全戸に日の丸を

一月十五日の成人式は大杉小で

一月十五日は、「成人の日」です。教育委員会は、この日大杉小学校講堂で成人式を行ないます。

昭和二十三年一月十六日から二十四年一月十五日までに生れ、昭和四十四年一月十五日現在大杉村に在住し、大杉村に住民登録をしている方には、一月六日から十日までに案内状をお届けします。

該年度の調査は、十一月十五日から十二月十五日までに住民票によって行ないましたが、その間あるいはその後に入居、移動された方、また、手続を怠った方は、印鑑を御持参の上、手続をさせていただきます。

成人式当日、選挙管理委員会では、会場新しく成人になられた方の選挙人名簿への登録申請を受け付けます。村内に居住している方で登録の申請を怠った方は、印鑑を御持参の上、手続をさせていただきます。

成人式当日、選挙管理委員会では、会場新しく成人になられた方の選挙人名簿への登録申請を受け付けます。村内に居住している方で登録の申請を怠った方は、印鑑を御持参の上、手続をさせていただきます。

共励会での体験発表

熱心な聴講ぶり



来年をもっとすばらしく

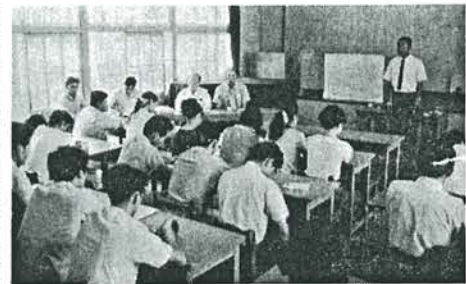
執行委員長

小笠原征太郎

大豊村連合青年団共励会が九月七日、八日の二日間、大杉中で開かれました。村内多数の青年が参加して、この会を成功のうちに終らすことが非常に嬉しく思いました。

七日の分科会では、①人間関係について②職業と経済について③恋愛と結婚についてという議題で討議、八日の全体会では村長、農協組合長、農業指導所長さん達を迎えて「十年後の村について青年の夢を語る」というテーマで討議が行なわれました。意見や質問が出ないのではないかと、私達は心

村長を中心に夢を語る

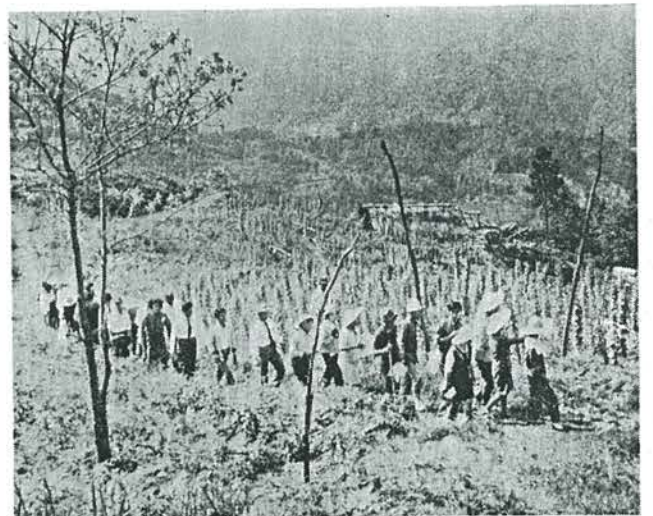
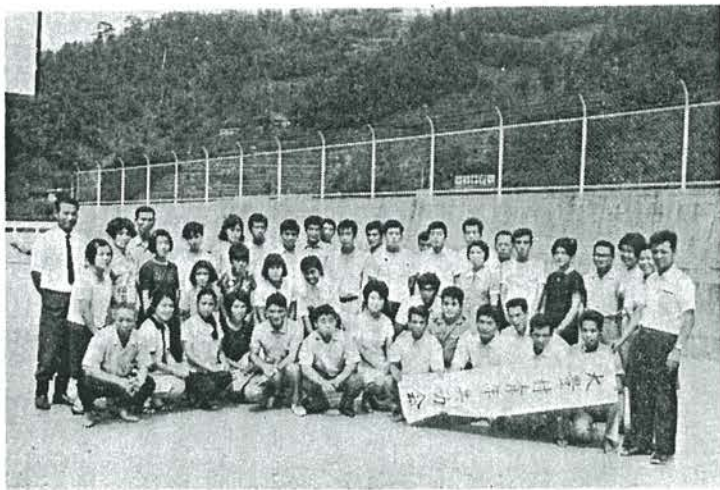


あの時の気持を忘れず立派な青年団を築こう

穴内青年団 原 好子

私は「村内の青年が大勢集まって一緒に行動をする」。こんな集いに初めて参加しました。右を向いても左を向いても知らない人が余りにも多過ぎる私。そんな私がどう風が吹きまわしか知りませんが副委員長という大切な役を引き受けたものの、どのようによってよいのか、昨年参加していいというところまで、少々面くらってしまっていました。

でも運営委員の方々はじめ、みんなのお陰であれだけの集いに上ることができました。私はとても嬉しく思いました。



4Hクラブ員は小春日和の暖かい陽光をあびて大豊村和の桑園を訪れ、現地で研究に余念がなかった。養蚕王国を目指して涙ぐましい活躍も頼もしい。

新しい経営にいどむ

4Hクラブ

4Hクラブの会員は村内に約四十名あり、七月二十七日、八日の二日には、嶺北地区クラブ員の技術交換会を大杉中で行ないました。

4Hクラブの発祥の地はアメリカですが、日本でも農村青少年が全国的な組織で次の信条を掲げて活動しております。

(一) 私達は農業の改良と生活の改善に役立つ腕(ハンド)をみがきます。

(二) 私達は科学的に、ものを考えることの出来る頭(ヘッド)を訓練します。

(三) 私達は誠実で友情に富む心(ハート)を培います。

(四) 私達は楽しく暮らし、元気で働くための健康(ヘルス)を増進します。

以上の四つの頭文字の「H」を四つ集めて「4H」(幸福の象徴)に配して4Hクラブのシンボルにしたものです。

これらのクラブ員は、青年団活動や青年学級への出席は勿論のこと、農業指導所で農業技術の向上のための学習活動を行ない、親子契約の実施、畜産、養蚕、林業その他ですばらしい成果をあげております。

彼等は常に農村の後継者として新しい経営ととりくみ、粗収入百万円以上の者もすでに数名あり、村の産業発展のためにもなくてはならない存在になっております。

↑写真は4Hクラブの技術交換分科会

自己紹介は唯々気取りがなく、どうぞよろしくというのがやっとな。レオナルド・ダ・ビンチ作のモナ・リザの微笑みと世にも有名なあの名画のモデルこそこの私、原好子です」といった方が人々の印象に残ったものを残念でした。レクリエーション「愛子よ」はとても良かった。こんなアイデアのある者がもっと沢山出て、もっと面白いものになるでしよう。また踊りは、みんなが踊れるものばかりであっただけに、よけいに心を一つにしたと思えます。

昨年は、あちこちへ踊りに行ったという話は聞かなかったが今年、そういうこともあり、この共励会を一層なごやかにしました。



詩 共励会

初めて共励会に出た
毎日の仕事、重なる行事
でも青年はつかれを知らない
誰れもが一緒にになって
あなたの手で私達の手で
これからの大豊を
どのように育てるか
夢を語り楽しかった二日間
お互いに励まし合ひ

協力しあってりっぱな
大豊村を築いていこう
手と手を取りあう
若人の瞳は希望に輝いて
すばらしく美しく思えた
これからの明日の村づくり
頑張ってください
家政高女 滝本美子

婦人の共励会を

東豊永公民館で開きます
大豊村婦人会では、新春
一月二十日(月曜日)十時
三十分から午後三時まで、
東豊永公民館(日本間)で
三十八回目の共励会を開き
ます。

婦人の地位の向上と発展
明日の幸を築くために、ふ
るってご参加下さい。

なお、くわしい日程その
他については後日、部落の
婦人会長さんを通じてご連絡
致します。

すぎます。そのために事故防止の

自転車の安全な乗り方

しないこと。

信号が青になってから発進し

悲惨！

国道32号線の事故

時、村としても誠に不名誉なこと
でもあり、今後このような事故の
一掃を期したいものであります。

最近、「大豊村の国道32号線上
で交通事故発生……」というニュ
ースが、テレビや新聞で、ものも
のしく報道されるようになりました。
そしてその都度死者や重傷傷
者が続出し、村民の尊い命が失な
われ、ここ大豊村にも交通戦争が
時代の波とともにやってきまし
た。

交通量は、激増の一途をたどり
将来益々優越される状態にありま
す。又最近では自転車乗りや歩行
者の法の秩序の無視、不注意等が
原因で自動車類との接触事故が目
だつてきました。

本山署管内のこの種の事故の80
%以上が、本村の32号線上で発生
しております。どの事故を見ても
注意さえすれば未然に防ぐことが
できたものばかりだと思いま
す。今日の交通モラルを考えます



歩行者や自転車乗りも
もっと交通法規の勉強を

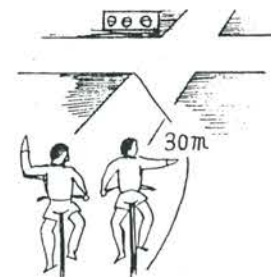
すぎます。そのために事故防止の
極めて常識的なことがらを次の通
りとりあげてみました。お互いに
わかりきったことでも案外無視さ
れがちなのが現状ではないかと思
います。どうか村民の皆さんは今
一度自覚し反省し合つて事故を一
掃するよう、ご協力をお願いしま
す。

(大豊村交通安全対策委員会)

- 正しい道
路の歩き
方
- 1、歩道
または
道路の
右側を
歩くこ
と。
 - 2、道路
を横断
すると
きは、
なるべ
く横断
歩道を
通るよ
うに心
がける
こと。
 - 3、道路
を横断
するときは、ワ
ン
(右見て、左見て、
スリー)もう一度右見て、
ゴー(渡る)ようにすること。
(左右確認)
 - 4、夜間歩行は、なるべく灯火を
つけて歩くこと。(相手方に対
する注意の喚起)
 - 5、道路で遊ばない。飛び出さな
いこと。

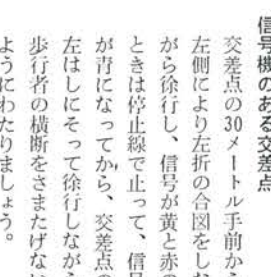


- 自転車の安全な乗り方
- 1、道路の左はしを通行すること
 - 2、2台以上通行するときは、必
ず一列になつて通行すること。
 - 3、他の道路から先に入ってくる
車の進行をさまたげないこと。
 - 4、左方の道路から同時に入って
くる車の進行を、さまたげない
こと。
 - 5、せまい道路から広い道路に出
るときは、交差点の手前で一た
ん止つて安全をたしかめてから
徐行して進むこと。
 - 6、横断歩道を歩いている歩行者
の通行をさまたげないこと。
(歩行者の横断するのを待つこ
と)
 - 7、夜間自転車に乗るときは、必
ず灯火をつけること。
 - 8、二人乗りや三人乗りは、絶対
にしないこと。
 - 9、ハンドルやブレーキ等装置を
いつも整備し安全な運転ができ
るよう心がけること。
 - 10、道路での自転車乗りの練習を



右折のしかた

信号機のある交差点
交差点の30メートル手前から
道路の左側により右折の合図を
(右手を垂直にあげる)をしなが
ら徐行し、信号が黄と赤のとき
は停止線まで止つて、信号が青
になつてから、右、左の安全
をたしかめ、徐行して前方の
横断歩道の手前で停止し自転
車の向きをかえ、進む方向の
しないこと。



左折のしかた

信号機のある交差点
交差点の30メートル手前から
左側により左折の合図をしな
がら徐行し、信号が黄と赤の
ときは停止線まで止つて、信
号が青になつてから、交差点
の左はしにそつて徐行しながら
歩行者の横断をさまたげない
ようにいたします。

全村民の自覚と
協力を期待

本山警察署長 中野 一 造



全国民の悲願もむなく、交
通事故という社会病はますます
まん延する傾向にあります。こ
の交通事故防止につきまして
は、格別のご協力をいただき感
謝にたえません。本年十一月三
日現在の高知県下の交通事故
状況は、発生件数四、三三三
件、死者一三八名、傷者五、五
六九名、本山署管内でも、発生
件数二〇一件、死者一八名、傷
者一三九名の多きに達していま
す。

この国道三二号線沿いに居住
される、皆さんは、交通事故防
止の通学、通園路には横断歩道

止について、随分と苦勞なさ
れていることと存じます。まし
て国道沿いの学校へ通学、通
園されている小・中学校の児童
生徒、保育園児を持たれるご家
族の皆さんは、交通事故の恐怖に
思ひます。

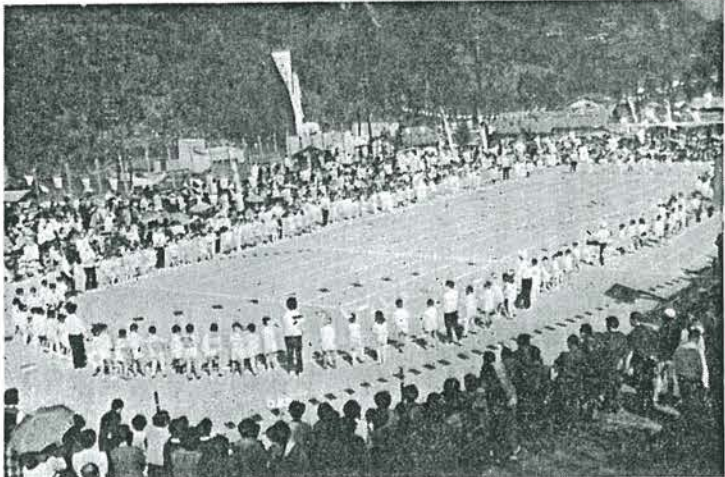
近頃事故多発地点五カ所を、
追越禁止場所として指定し、ス
ピードの抑制を図りたいと存じ
ております。

村民の皆さんも一人一人が、
今一度「人は右、車は左」の原
則を守られ、道路への飛び出し
等は絶対しないよう、道路の横
断にはくれぐれも注意願つて、
交通事故の犠牲にならないよ
う努力していただきたいと存じ
ます。

大杉地区公民
館が優勝

賑つた村民体育祭

本年で第三回目を迎えた村民、



- 二位 西豊永地区公民館
- 一位 大杉地区公民館

の日にふさわしい体育祭をくり
ひろげました。本大会の成績は次
の通り。

330歳
大会
ソフトボール
立川が優勝

十一月三日
の文化の日
に大豊中学
校豊水分室
で開かれ、
一部不参加
地区もあり
ましたが、
約千五百人
ほど参加し
て、和気あ
いあいの一
日を過ごし
ました。

当日は地
元公民館の
民謡教室や
婦人会、保
育園児の遊
び等が次々
に披露され
、菊香文化
の日にふさわしい体育祭をくり
ひろげました。本大会の成績は次
の通り。

この一年をふりかえる
豪雪による災害(二月)、中学
校二校、小学校四校の統合(四
月)、役場庁舎落成(五月)、村
内四農協の合併(五月)、電報電
話局、大杉設置木決まり(六月)、
大豊中学校建築着工、集中豪雨災
害(八月)、配電線無断中絶工事
着工(九月)、大豊村長選挙
(十一月)、小松曾林道開設工事
着工(十二月)

